

伊勢市教育研究所

第17号

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail: kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp



平成 27 年 3 月 27 日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町 540 番地

～教育支援センター「NEST」の体験活動を振り返って～

今、巣立つ子どもたち

今年も 10 人の子どもたちが NEST から巣立っていきました。進路が決まったときの子どもたちの晴れやかな笑顔に私たち職員も感動し、心が温まりました。

子どもたちが学校へ行けない状態に至るまでの状況は、様々です。人間関係も、考え方や感じ方もみんな違っていています。同じなのはどの子も傷ついた心を持って NEST に来たということです。

本来子どもたちは純粋で、厳しい状況にあっても一生懸命生きようとします。多くの子どもはその力で厳しい状況を越えていきますが、時には、あまりに心をすり減らし、エネルギーが出なくなってしまうことがあるのです。NEST は、そういう状況に置かれた子どもたちにエネルギーを取り戻してもらうところだと考えています。

そこで、これまでの子どもたちとの日々を振り返りながら、NEST での主な体験活動を紹介します。

<潮干狩り> ～5月・伊勢市大湊海岸～



伊勢市所有の通学専用バスで、大湊海岸に向かい、潮干狩りをしました。その日は、あまり貝は採れませんでした。地元の方のご厚意・ご指導で貝の見つけ方やとれる場所を教えてくださいました。

広がる海とさわやかな風が子どもたちの心をほぐし、自然の中で開放的な気分を味わうことができました。

<陶芸体験> ～6月・NEST 伊勢教室～

陶芸家の尾上信市先生の指導のもと、コーヒーカップ・マグカップなどの作品をつくりました。

事前に自分が作りたいもののデザインをイメージし、紙に描きました。子どもたちの発想は豊かで、オリジナリティーあふれるデザインが多く、後日届けてもらった作品の出来栄もよく、満足気な表情を見ることができました。



<パン作り体験> ～7月・大台町 フォレストピア～

伊勢フォレストピアのパン工房でパン作りを体験しました。子どもたちは 2 人一組になり、材料を混ぜました。その後 1 人分ずつ取り分



け、ひとりひとりが丁寧に生地をこねました。柔らかいパン生地の感触に癒されながら、子どもたち同士の会話も弾んでいました。みんな楽しそうに、自分の好きな形にパンを作りました。パンが焼きあがるまで、同じ施設にある小川で川遊びをして、仲間との時間を楽しみました。

<調理実習体験> ～7月・多気町 まごの店～

相可高校教諭の村林新吾先生に指導していただき、「簡単にできる和食」というテーマで調理実習をしました。当日は相可高校食物調理科調理クラブの生徒も参加し、子どもたちの指導に当たってくれました。巻き寿司ののり巻きの具の巻き方を教えてもらったときの子どもたちの表情は真剣そのものでした。筑前煮や味噌汁の作り方も 教えていただき、大変充実した時間を過ごすことができました。



<わくわく宿泊体験活動> ～9月・ネットワークリゾートなんせい～

<1日目>

ネットワークリゾートに向かうバスの中では通級生同士、指導員との会話が弾みました。昼食後、ヨットにのせてもらって、湾の入り口までエンジンで進みスタッフの方々に教えてもらいながら舵を取らせてもらったり、湾の周りのきれいな景色を楽しんだりしました。



クルージングの次は、カヌーに挑戦し、通級生同士、通級生と指導員がペアを組んで乗る事になりました。息がぴったり合って、順調に進むカヌーもあれば、右へ行ったり左へ行ったりと思うように進まず迷走気味のカヌーもありましたが、広い海を自分の力でこぎ進むという体験をみんなで楽しむ事ができました。

カヌーの後は釣りをしました。見た目がグロテスクなごかいを苦労しながらはりにつけて、釣り糸を垂れてしばらく待つと、「つれた！」と言う声が聞こえ、けっこう大きなコチが釣れました。

夕食にはカレーライスとサラダを作り、釣った魚も焼いて食べました。カレー・サラダの係、飯盒の係、火おこしの係と前もって決めてありましたが、お互い足りないところを補い合いながら夕食の準備を進めることができました。



夕食の準備中から交代で施設にある五右衛門風呂に仲良く入ったり、夕食後にはみんなでいろいろな花火をして過ごしたりしました。

<2日目>

朝食後1時間程度釣りをしました。小さいながら、カイズ（黒鯛の子）とゼンメ、ハゼ、フグなどが釣れ、釣れた魚を家へのお土産にした通級生もいました。この宿泊体験を通して、他の通級生や指導員とともに楽しい体験や時間を共有することができました。



学校で行われるキャンプや修学旅行に参加できなかったり、保護者から離れて宿泊を経験したことがなかったりする子どもたちもいます。一緒に調理や食事をし、同じ部屋で寝ることを通し、通級生同士が、ふれあい、協力し、助け合ったことで互いのつながりが一層深まったようでした。

<トンボ玉作り体験> ～10月・三重県立伊勢まなび高等学校～

「トンボ玉」とは、穴の空いたビー玉で、江戸時代などには根付けやかんざしなどの装飾品に使用され、現在は携帯のストラップなどに使われています。



伊勢まなび高校にお世話になり、トンボ玉作りの体験活動をさせていただきました。まず教頭先生から、学校のパンフレットを使って伊勢まなび高校の学校紹介をしていただき、まなび高校を進路先に希望している子どもたちは特に熱心に耳を傾けているようでした。

トンボ玉作り体験では、講師の先生から、作業の手順と注意事項を聞き、トンボ玉の作り方を実際に見せていただきました。まず、いろいろな色のガラス棒を選び、特別なバーナーで溶かしながらくると回しながら球形にして、作品を仕上げました。出来上がった作品を大切に持ち帰り、家に帰ってから、家族にプレゼントした子もいたようでした。また、3年生は校舎や授業の見学もさせてもらい、まなび高校の雰囲気味わうことができました。



<みかん狩り> ～12月・南伊勢町 ないぜしぜん村～



ないぜしぜん村に着くと、施設の方に挨拶をした後みかんの狩り方を教わりました。となりのみかん畑まで歩き、はさみ片手に、鮮やかなオレンジ色の実を手にとって、みかんを味わいました。その後は、裏にある山に20分程かけて全員で登り、五ヶ所湾の景勝をしばらく楽しみながら、昼食を

とりました。急な坂道だったので途中休憩したり、仲間と励まし合ったりして、何とか最後まで登り切れました。下山後はお土産用のみかんを、量を競い合うほど大量にとり、自然の中でお腹も景色も満喫できた体験でした。



<調理実習体験> ～12月・多気町 まごの店～

本年度2回目となる相可高校の調理体験は、クリスマスイブの日に「クリスマスクッキング」というテーマで「クリスマスプレートとフルーツロールケーキ」を村林新吾先生に指導していただきました。相可高校食物調理科調理クラブの生徒も参加し、子どもたちに丁寧に教えてくれました。野菜やフルーツを切ったり、ケーキにクリームを塗ったりと難しい作業もありましたが、調理クラブの生徒が、子どもの様子を見ながら調理のポイントを押さえて指導してくれたので安心して楽しく体験することができました。出来上がった料理はきれいにプレートに盛り付け、自宅に持ち帰り、子どもの顔からは達成感と満足感がうかがえました。



＜書道体験＞ ～1月・NEST伊勢教室～

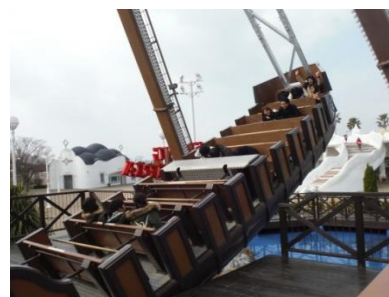
書道家の飯田祥光先生を講師に招き、書道を教えていただきました。今年は未年ということで、筆の基本的な払いやはねを実感するため、先生の指示に従って筆で色紙に羊の絵を描きました。先生の見本をよく観察し、一筆一筆心をこめて書くことの大切さを学びました。色紙には、好きな言葉や文字を入れて、作品のレイアウトを考えながら自分の作品を仕上げていきました。

その後、事前に一人ひとりが考えてあった俳句を先生が短冊色紙に書いてくれました。代表作品は、先生が条福用紙に書いてくれて、俳句をみんなの前で披露することができました。出来上がった色紙は、NEST伊勢教室に飾り、お互いの作品を見て談笑しながら、仲間のよいところを見つけようとしている姿を見ることができました。



＜お別れ遠足＞ ～3月・志摩市磯部町 志摩スペイン村～

天候に恵まれ、往復のバスの中や昼食時は楽しそうに会話が弾んでいました。自由時間では、アトラクションを仲間と心ゆくまで楽しみました。アトラクションの後、気分が悪くなってしまった仲間のことを優しく気遣う場面も見られました。集合時間や公衆のルールをきちんと守ることができ、参加者全員が気持ちよく過ごせたので、よい思い出の一日となりました。



通級生にとって、外でのさまざまな体験をすることや普段あまり交流のない人と関わりを持つことは、一般社会とのつながりも幾分意識できるきっかけとしても大変有意義なことであると思われます。

子どもたちは日常的には自己肯定感が弱く、何事においても自信のないことが多いです。また、学校の行事やNESTでの体験活動には参加できない子どももいます。参加するか否かは本人の意思に任せることを基本としていますが、「体験活動に参加してみよう」という気持ちの変化は、その子の「心の成長の表れ」であるように思うので、できるかぎり参加を促しています。それは、子どもが前に一歩踏み出す原動力となっていくと考えられるからです。

これからも、体験的な活動を計画的に設け、通級生に働きかけていきたいです。そして、子どもたちが新たな自分を発見し、自己肯定感を感じる機会が増えたら、学校復帰に向け一歩を踏み出すのではないだろうかと考えます。これからも、教育支援センター「NEST」は学校との連携を深めながら、子どもたちの心身の成長を支援していきたいと思えます。